

歴史を歩く時代を歩く : 服部英雄退職記念誌 : と
ことん服部英雄表紙等

<https://hdl.handle.net/2324/1515835>

出版情報 : 2015-03-28. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン :
権利関係 :

◎業績目錄

—
服部英雄

業績目録

服部 英雄

●著書（単著）

- 1 『景観にさぐる中世』 新人物往来社、1995、全 611 頁、1996 年に第 18 回角川源義賞受賞
- 2 『地名と歴史学』 角川書店、2000、全 244 頁
- 3 『二千人が七百の村で聞き取った二万の地名、しこ名 —佐賀平野の歴史地名地図稿—』 花書院、2001、A4、全 129 頁、地名地図 A2-56 枚、佐賀平野の条里制地図 A2-7 枚
- 4 『地名のたのしみ』 角川ソフィア文庫、2003、全 251 頁
- 5 『歴史を読み解く・さまざまな史料と視角』 青史出版、2003、全 216 頁
- 6 『武士と荘園支配』 [山川日本史リブレット]、山川出版社、2004、全 110 頁
- 7 『峠の歴史学 古道をたずねて』 [朝日選書 830]、朝日新聞出版、2007、全 332 頁
- 8 『河原ノ者・非人・秀吉』 山川出版社、2012、全 713 頁、2013 年に第 66 回毎日出版文化賞受賞
- 9 『四千人が二千の村で聞き取った四万の地名、しこ名』 花書院、2014、三色地図 105 枚・地名一覧 82 頁解説 33 頁、佐賀県地名データ CD 1 枚
- 10 『蒙古襲来』 山川出版社、2014、全 516 頁
- 11 『続 四千人が二千の村で聞き取った四万の地名、しこ名』 花書院 印刷中

●編著書（* 共編著者の名前がないものは服部英雄編）

- 1 『筑前国怡土庄故地現地調査速報』 花書院、1999、全 177 頁
- 2 石井進・共編著『原城発掘—西海の王土から殉教の舞台へ—』 新人物往来社、2000、全 228 頁
- 3 『地名を歩く』 新人物往来社、2004、全 301 頁
- 4 『中世景観の復原と民衆像—史料としての地名論—』 花書院 2004、全 296 頁
- 5 大庭康時共編著『港湾都市と対外交渉（中世都市研究）』 新人物往来社 2004、全 332 頁
- 6 千田嘉博・宮武正登共編著『原城と島原の乱 有馬の城・外交・祈り』 新人物往来社、2008、全 326 頁
- 7 『史跡で読む日本の歴史 8 アジアの中の日本』 吉川弘文館、2010、全 304 頁
- 8 海老澤衷・飯沼賢司共編著『重要文化的景観への道 エコサイトミュージアム田染荘』 勉誠出版、2012、全 208 頁

●論文

- 1 服部英雄、『政基公旅引付』が記さなかった下剋上の中世村落、『遙かなる中世』、1、12-15 頁、および 11 頁、1977
- 2 服部英雄、戦国相良氏の三郡支配、『史学雑誌』、86-9、1-42 頁、1977
- 3 服部英雄、九州探題の肥前守護職兼補について—南北朝以降—、『遙かなる中世』、2、20-23 頁、1977
- 4 服部英雄、開発・その進展と領主支配—肥前国長嶋庄と橋薩摩一族—、『地方史研究』、152、11-38 頁、1978
- 5 服部英雄、空から見た人吉庄・交通と新田支配、『史学雑誌』、87-8、38-68 頁、1978
- 6 服部英雄、肥前国長嶋庄の開発主体—条里制耕地の復原と変遷—、『史学雑誌』、88-6、1-50 頁、1979
- 7 服部英雄、人吉庄再論、『日本歴史』、375、37-59 頁、1979
- 8 服部英雄、奥山庄波月条絵図とその周辺、『信濃』、32-5、17-46 頁、1980
- 9 服部英雄、軍忠状の彼方に、『史学雑誌』、89-7、1-43 頁、1980
- 10 服部英雄、戦国相良氏の誕生、『日本歴史』、388、1-17 頁、1980
- 11 服部英雄、中世荘園と館、『日本城郭大系』別巻<新人物往来社>、135-172 頁、1981
- 12 服部英雄、地名を中心とした荘園景観の復原—播磨国鶴庄と周防国仁保庄を素材に—、『月刊歴史教育』、27、31-37 頁、1981

- 13 服部英雄、小字地名が語るもの（地名の世界＜特集＞『地理（臨時増刊号）』、54-79 頁、1982
- 14 服部英雄、変貌する耕地景観と荘園史研究、『歴史学研究』、501、17-32 頁、1982
- 15 服部英雄、続・消えゆく常陸の中世、『茨城県史研究』、48、48-70 頁、1982
- 16 服部英雄、用作考—東大寺領周防国与田保における荘園地名一、『地理』、増刊号、54-61 頁、1982
- 17 服部英雄、続・人吉庄再論、『日本歴史』、411、52-71 頁、1982
- 18 服部英雄、小地名による中・近世耕地景観の復原—能登国万行保・奥原保を素材に一、『歴史公論』、86、44-51 頁、1983
- 19 服部英雄、未来年号考、『古文書研究』、20、59-86 頁 1983
- 20 服部英雄、相良氏と南九州国人一揆、『歴史学研究』、514、21-35 頁、1983
- 21 服部英雄、歴史資料としての地名の特質と利用法、『地名と日本人』＜講談社＞、166-176 頁、1983
- 22 服部英雄、未来年号の世界から一日付に矛盾のある文書よりみた荘園の様相一、『史学雑誌』、92-8、38-65 頁、1983
- 23 服部英雄、質入れ担保となった備後国地毗庄、『日本歴史』、438、20-39 頁、1984
- 24 服部英雄、長門国堅田弁財天池水聞書、『遙かなる中世』、6、11-30 頁、1985
- 25 服部英雄、豊前国金田庄故地における中世景観の復原—南北朝期の名の存在形態一、『史学雑誌』、94-7、63-93 頁、1985
- 26 服部英雄、松笠考、『遙かなる中世』、7、82-90 頁、1986
- 27 服部英雄、その後の能登・岩井川、『遙かなる中世』、7、1-32 頁、1986
- 28 服部英雄、みそさく考、『信濃』、38-3、186-210 頁、1986
- 29 服部英雄、条里制地図作成の必要性について—特に通称地名の収集をめぐって—、『条里制研究』、2、9-38 頁、1986
- 30 服部英雄、二豊のゆうじゃく—現地調査の方法による中世村落史研究への試み一、『大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館紀要』、5、11-107 頁、1988
- 31 服部英雄、荘園調査はなぜ行なわれないのか、『日本史研究』、310、142-170 頁、1988
- 32 服部英雄、現地調査と荘園の復原、『講座日本荘園史』＜吉川弘文館＞、1、187-254 頁、1989
- 33 服部英雄、条里制研究法の再検討—肥前国神埼郡の条里「計画」村落をめぐって—、『日本歴史』、500、156-170 頁、1990
- 34 服部英雄、芦田川本流域の村むら、『国立歴史民俗博物館研究報告「中世荘園遺構の調査ならびに記録保存法—備後国太田荘」古環境の歴史学・地理学的研究』、28、135-175 頁、1990
- 35 服部英雄、平家物語の時代と農業用水、『中世村落と現代』＜吉川弘文館＞、91-168 頁、1991
- 36 服部英雄、巻向・穴師の山と水、『中世の発見』＜吉川弘文館＞、174-216 頁、1993
- 37 服部英雄、中世のムラの現地調査はなぜ必要なのか、『中世のムラ』＜東大出版会＞、49-64 頁、1995
- 38 服部英雄、紀伊国栲田庄絵図の受難、『描かれた荘園の世界』＜新人物往来社＞、197-269 頁、1995
- 39 服部英雄、いまひとすじの熊野道・小栗街道聞書、『比較社会文化』、1、11-30 頁、1995
- 40 服部英雄、地名史（資）料論、『中世資料論の現在と課題』＜名著出版＞、159-208 頁、1995
- 41 服部英雄、歴史学と景観保存、『歴史学研究』、677、139-143 頁、1995
- 42 服部英雄、地名と歴史学—歴史地図の読解、『岩波講座日本通史』別巻、3、327-352 頁、1995
- 43 服部英雄、久安四年・有明海にきた孔雀—肥前国杵嶋庄と日宋貿易一、『文明のクロスロード / MUSEUMKYUSYUU』、52、35-43 頁、1996
- 44 服部英雄、真壁庄の復原、『真壁氏と真壁城』＜河出書房新社＞、85-112 頁、1996
- 45 服部英雄、地名と水利、『中世荘園の世界』＜思文閣出版＞、306-315 頁、1996
- 46 服部英雄、名手・粉河の山と水—水利秩序はなぜ形成されなかったのか—、『土地と在地の世界を探る—古代から中世へ』＜山川出版社＞、223-261 頁、1996
- 47 服部英雄、二つのザラ峠—天正十二年、佐々成政は本当に巖冬期の針ノ木峠を越えたのか—、前編『岳人』、1月号、86-92 頁、後編『岳人』、2月号 143-146 頁、1997

- 48 服部英雄、佐々成政・ザラ越えの新事実—北アルプス山中の謎の道「鎌倉街道」を行く—、『歴史読本』、42-9、100-111 頁、1997
- 49 服部英雄、虚実はあざなえる縄—殉死者たちの墓碑から—、『日本歴史』、600、98-106 頁、1998
- 50 服部英雄、怡土庄故地を歩く—高祖・大門村周辺の小地頭中村氏の屋敷・耕地を中心に—、『九州史学』、120、5-15 頁、1998
- 51 服部英雄、原城の戦いと島原・天草の乱を考え直す、丸山雍成編『日本近世の地域社会論』、85-137 頁、1998
- 52 服部英雄、同じ日に同じ土地を別の人間が寄進すること—肥前光浄寺文書に見る南北朝の内乱—、『古文書研究』、50、16～32 頁、1999
- 53 服部英雄、犬追物を演出した河原ノ者たち：犬の馬場の背景、『史学雑誌』111-9、1470-1499 頁、2002
- 54 服部英雄、日根野庄村絵図と荒野の開発、『九州史学』、131、21-44 頁、2002
- 55 服部英雄、天保・庄吉碑と耕地の開発、棚田学会誌『日本の原風景・棚田』、2004
- 56 服部英雄、水軍とは何か、五味文彦編『源氏対平氏』別冊歴史読本、56-64 頁、2004
- 57 服部英雄、湯屋・橋寺・井料—地名による紀伊国鞆淵庄の復元、新年特集号 日本史の中の地名『日本歴史』、668、49-64 頁、2004
- 58 Hideo HATTORI、Chinese Merchants and Chinese Settlements in Medieval Japan —Starting with Place name Toubou and Imatoubou, "Interaction and Transformations" Kyushu University、2、233-64 頁、2005
- 59 服部英雄、日宋貿易の実態—「諸国」来着の異客たちと、チャイナタウン「唐房」、『東アジアと日本—交流と変容』、2、33-64 頁、2005
- 60 服部英雄、博多の海の暗黙知・唐房の消長と在日宋人のアイデンティティ、『九州大学』21 世紀 COE プログラム (人文科学)』、171-197 頁、2006
- 61 服部英雄、『蒙古襲来 (竹崎季長) 絵詞』の再検討、『日本歴史』、693、87-96 頁、2006
- 62 服部英雄、中世城郭の復元と史料学、『遺跡学研究』4、54-61 頁、2007
- 63 服部英雄、太鼓製作と中世箱崎散所、『リベラシオン』、128、45-52 頁、2007
- 64 服部英雄、日本中世国家の貨幣発行権、『東アジアと日本：交流と変容』、71-84 頁、2007
- 65 服部英雄、中世城郭の復元と史料学、『遺跡学研究』、4、54-61 頁、2007
- 66 服部英雄、中世の時間—一定時法・不定時法および常香盤について (科学研究費、基盤B)、非文字知社会と中世の時間・暦・交通通信・流通に関する研究』九州大学リポジトリ (QIR)17911、1-18 頁、2010
- 67 服部英雄 (第一部) 楠瀬慶太 (第二部のみ共著)、海と民衆知・個人知、『国立歴史民俗博物館研究報告「中・近世における生業と技術・呪術信仰」』、157、277-288 頁、2010
- 68 服部英雄、韓鉄「大宰府管志摩郡製鉄所」考、「坪井清足先生卒寿記念論文集」、984-995 頁、2010、
- 69 服部英雄、朝鮮被虜人と殉死、「前近代日本のチャイナタウン・コリアタウン」、九州大学リポジトリ (QIR)、1-9 頁、2011
- 70 服部英雄、中世の被差別民衆群像：九州から考える (特集第 17 回全国部落史研究大会)、部落史研究 29、2-22 頁、2012、『佐賀部落解放研究所紀要』、
- 71 服部英雄、中世の河原ノ者と非人、福岡人権研究所『部落解放史の最前線』、4-55 頁、2013

●自治体史・報告書・記録集、書籍等

- 1 史跡の見方・調べ方—地名・城館・荘園—、『文化財保護の実務』＜柏書房＞、346-411 頁、1979
- 2 総合史としての中世農村・中世荘園『月刊文化財』、206、46-53 頁、1980
- 3 人吉・球磨の道、『日燃ゆる九州』＜集英社＞、なし、1981
- 4 あるき・み・きく歴史学、『日本の科学者』、20-4、18-26 頁 1985
- 5 浦和宿二七市場遺跡の歴史的意義、浦和市教育委員会『浦和宿二七市場遺跡実態調査報告書』、13-15 頁、1986
- 6 歴史の道の調査と整備、『月刊文化財』、294、10-15 頁、1987
- 7 東国の灌漑用水——巨大な記念物・女堀——、『古代史復元』10＜講談社＞、73-80 頁、1990
- 8 文化庁史跡研究会、『日本の史跡』6（責任編集）＜同朋社＞、1991
- 9 境目の城としての倭城、『よみがえる角牟礼城』、72-93 頁、1997
- 10 中世・近世に使われた「のろし」、『烽<とぶひ>の道』＜青木書店＞、183-214 頁、1997
- 11 伊良原の歴史と地名・地誌—中世史研究者の視点から—、福岡県教育委員会『福岡県文化財報告書』、143、177-262 頁、1999
- 12 柳川の地名地図—中世史研究者の視点から、柳川市役所『地図のなかの柳川—柳川市史地図編—』、35～51 頁、1999
- 13 備後国地毗荘、『講座日本荘園史・中国地方の荘園』（吉川弘文館）、144-161 頁、1999
歴史的空間の解釈、『空間のパースペクティブ』（九州大学出版会）、1999
- 14 角牟礼城の保存と活用、大分県玖珠町教育委員会『角牟礼城』、79-81 頁、2000
- 15 長崎街道沿いの烽火、長崎県教育委員会『長崎街道：長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書』、
- 16 長崎県文化財報告書、154、189-194 頁、2000
- 17 今市船着場遺跡の歴史的な役割：益田川の河口津をめぐる状況、益田市教育委員会『中世今市船着き場跡文化財調査報告書』、61-78 頁、2000
- 18 地名、木村礎・林英夫編『地方史研究の新方法』、八木書店、110-111 頁、2000
- 19 安岐川下流域の歴史と地名、大分県安岐町教育委員会『塩屋条里遺跡』、9、137-147 頁、2001
- 20 柳川市史編集委員会『柳川地名調査報告書』、22-26 頁、2002
- 21 中世の南関・大津山、『南関町史特論編』、345-383 頁、2002
- 22 原城発掘、荒野泰典編『江戸幕府と東アジア』（『日本の時代史』14、吉川弘文館）、291-316 頁、2003
- 23 地名調査と地域の歴史（文化講演会再録）、『栖』（すみか）41（鳥栖郷土史研究会）、2-9 頁、2003
- 24 肥前千葉氏と小京都小城——講演録（佐賀県小城町）、2003
- 25 一揆が籠もった城・鳥越城と原城、『北陸中世城閣の整備と活用・史跡鳥越城跡附二曲城跡の回顧と展望』（石川県鳥越村教育委員会）、1-6、2003
- 26 古代中世の長崎街道 烽火台にみる長崎街道の軍事的側面——加盟照陽『烽山日記』および古代烽、福岡県教育委員会『長崎街道』福岡県文化財調査報告書 184、227-23 頁、2003
- 27 旦過と唐房、『港湾都市と対外貿易』新人物往来社、21-36 頁、2004
- 28 肥前国長嶋庄、『日本荘園史講座』四国・九州地方の荘園、2004
- 29 分間図と秋月街道、福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告書』、195、137-144 頁、2004
- 30 本田佳奈、岩成俊策、渡邊太祐、伊東和博、藤本維新武、星野村の棚田：第『耕地の歴史と地名・地誌・民俗誌』、星野村教育委員会『星野村民俗文化財棚田調査報告書』、144-205 頁、2004
- 31 旦過・犬の馬場・唐房、中世景観の復原と民衆像、『中世景観の復原と民衆像：史料としての地名論』、221-292 頁、2004
- 32 鶴荘の調査の意義と今後の課題、シンポジウム 法隆寺領播磨国鶴荘 記録集、13-22 頁、2005
- 33 若宮町誌（平安時代の金生荘；鎌倉時代）、若宮町誌編さん委員会『若宮町誌』上巻、39、427-482 頁、2005

- 34 大野城市史：第三編『中世』、大野城市教育委員会『大野城市史』、上巻、501-598 頁、2005
- 35 凝縮されたバリ島 3 昼夜、海老澤衷編『バリ島の水稲文化と儀礼』（講座 水稲文化研究 2・早稲田大学水稲文化研究所）、22-26 頁、2006
- 36 行橋市史：第 3 編『中世』、行橋市『行橋市史 中巻』、35-182 頁、2007
- 37 元禄の筑前・肥前国境争論地——二重平・篠平・ウオセキ——、『地方史福岡』41 巻2、2-3 頁、2007
- 38 首羅山の歴史と東アジア、地名と伝承、『首羅山遺跡』、610-616 頁、2008
- 39 北波多地名、北波多村史執筆委員会『北波多村史 自然、集落誌・民俗編』、2008
- 40 記録・シンポジウム「福岡城・下の橋門復原をめぐって 史跡整備の功罪」、『比較社会文化』、14、1-48 頁、2008
- 41 国境の村々・五ヶ山の歴史；五ヶ山の地名と地誌；小川内の地名と地誌、福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告書』、215、160-240 頁、2008
- 42 納戸岬（いわゆる「かくれキリシタン」の村の棚田—長崎県平戸島、国見岳（安満岳）山麓、『棚田学会 10 周年記念誌 2009 ニッポンの棚田』、80-81 頁、2009
- 43 「地域の歴史・生活文化と文化財」、雲仙の文化的景観『雲仙岳と岳の棚田』調査報告書、雲仙市文化的景観調査委員会、雲仙市教育委員会、2009
- 44 田染荘小崎への招待、2010
- 45 大正デモクラシーの時代から太平洋戦争まで（旧制福岡高校の時代 43-82 頁）学内寮（学而寮）と南寮（114-116 頁）六本松・最初的女子学生と最初的女子教師（新制九州大学、第一分校から教養部 142-144 頁）新制大学での学生運動（175-178 頁）、昭和一三年の住宅地区から六本松の町を読む（404-405 頁）、『青春群像さようなら六本松一九二一福高一九二〇〇九』、2009
- 46 佐々成政のザラ越えと旧信濃国人・村上義長の動向——鈴木景二氏らの試案によせて、および安房峠追補、『比較社会文化』、16、1-8 頁、2010
- 47 服部英雄 / Nascimento, Gilberto, フロイス『日本史』V 部 80 章：松田毅一・川崎桃太翻訳の検証、1-14 頁、2011
- 48 中世小城の景観・海から考える、佐賀県小城市教育委員会『中世肥前千葉氏の足跡：小京都小川の源流』、2011
- 49 田染荘小崎の学術的価値（重要文化的景観への道：エコ・サイトミュージアム田染荘）—重要文化財的景観と農村の未来、『アジア遊学』、153、43-51 頁、2012
- 50 宗像の島々：小呂島、沖ノ島、大島の歴史と地誌、福岡県企画・地域振興部総合政策課世界遺産登録推進室『宗像・沖ノ島と関連遺産群』研究報告、1、131-168 頁、2011
- 51 首羅山、背景の宋人社会と禅宗化、久山町教育委員会『首羅山遺跡発掘調査報告書』、229-233 頁、2012
- 52 チャイナタウン唐房——福岡市内および周辺トウボウ地名所在地の歴史的環境、『自然と遺跡からみた福岡の歴史・新修福岡市特別編』、280-301 頁、2013
- 53 福岡県の城、アクロス福岡文化誌編集委員会『福岡県の名城』、6-21 頁、2013
- 54 重源と中世の開発、狭山池シンポジウム 2012 記録集『ため池築造と偉人』、29-49 頁、2014

●研究ノート、報告

- 1 消えゆく中世の常陸—真壁郡長岡郷故地を歩く—、(共同執筆)『茨城県史研究』、41、16-3 頁、1979
- 2 頼朝の奥州進攻の道——鎌倉から平泉へ、『風かけるみちのく』<集英社>、157-160 頁、1981
- 3 文化財レポート—170—文化財保護行政上の課題としての中世遺跡ならびに広域水田遺跡『日本歴史』、427、79-85 頁、1983
- 4 文化財レポート—166—昭和五七年度後期の史跡等の指定、『日本歴史』、423、93-102 頁、1983
- 5 文化財レポート—161—昭和五七年度前期の史跡等の指定、『日本歴史』、418、79-86 頁、1983
- 6 文化財レポート 200 回によせて（文化財レポート—200—200 回を顧みて、『日本歴史』、457、99-101 頁、1986

- 7 文化財レポート— 222 — 「歴史の道」調査・整備事業 10 年を回顧して、『日本歴史』、479、95-104 頁、1988
- 8 歴史の道の調査と整備、『月刊文化財』、294、10-15 頁、1988
- 9 秀吉が築いた城— 倭城一、『歴史読本』、1996 特集号、68-75 頁、1996
- 10 鎌倉街道安房越え踏査記、『岳人』、605、154-157 頁、1997
- 11 文化財レポート 倭城の保存をめぐる近況、『日本歴史』、606、110-119 頁、1998
- 12 天草・島原の乱——新視点からの新構図（特集 秀忠から家光へ—— 葵三代覇者の継承）『歴史読本』、45-15、176-185 頁、2000
- 13 小栗街道・灰坂峠越から、『歴博』、108（特集・橋と峠）、11-14、2001
- 14 歴史的通称地名調査における WebGIS の活用、情報処理学会研究報告、(碓崎薫共著) 25-32 頁、2001
- 15 歴史的通称地名調査への WebGIS の活用と評価（碓崎薫共著）、223-230 頁、2001
- 16 グループによるフィールドワーク支援用 WebGIS の評価、地理情報システム学会講演論文集、313-316 頁、2002
- 17 研究余録 鹿ヶ谷事件と源頼朝、『日本歴史』、649、90-95 頁、2002
- 18 よみもの 九州地名考 (1) 中世の水運を偲ばせる「且過」(地方整備局の発足と河川 (6) 九州)、「季刊河川レビュー・31」(29)、68-71 頁、2002
- 19 肥薩のみち・その歴史「相良氏による人吉支配の七百年、『週刊街道をゆく 13 肥薩の道』、20-21 頁、2005
- 20 福岡市——博多湾と唐房・唐人町（特集 九州の唐人町）——（福岡）、『海路』、2、100-110 頁、2005
- 21 海をみて、海図を読む（歴史の風）、『史学雑誌』、115-1、32-34 頁、2006
- 22 城内住宅誌その 1 総論と前史（戦中編）、九州大学比較社会文化 紀要 12、111-148 頁、2006
- 23 原城の戦い（第 2 特集 九州の城を探る）、海路、4、103-118 頁、2007
- 24 城内住宅誌その 2、九州大学比較社会文化 紀要、13、1-26 頁、2007
- 25 秋山物語 2 歴史の峠を歩く、『山と溪谷』、2008
- 26 中世瀬戸内航路と源平合戦（特集 里海としての瀬戸内海とそれを支える文化力）、『瀬戸内海』、55、24-29 頁、2008
- 27 二つの従軍記、九州大学『比較社会文化』、15、1-25 頁、2009
- 28 昭和 30 年代・濃尾平野と周辺の中世城館、『比較社会文化』、16、121-264 頁、2010
- 29 野戦病院・南支派遣軍第 104D 第：昭和 17～20（1942～45）年、九州大学『比較社会文化』：紀要、17、95-141 頁、2011
- 30 中世城館研究の一視角、『千曲』、70、1-14 頁、1991
- 31 鎌倉街道・再発見、『歴史と地理』、469、1-26 頁、1994
- 32 史跡における建物復元の問題点——近世城郭の場合——、『文明のクロスロード』、46、12-23 頁、1994
- 33 中世・近世遺跡整備の問題点、『歴史読本』、172-178 頁、1994
- 34 荘園の現地調査から考えた南北朝内乱の意義— 安芸国三入庄・備後国地毗庄・周防国仁保庄の調査を通じてみた武士の「家」の交替——、広島県文化財協会『広島県文化財ニュース』、163、1～9 頁、1999
- 35 倭城・海を通じた交流の鬼っ子、『船員保険』、599、10-12 頁、2003
- 36 史跡福岡城跡、下の橋門・復元批判— 近世城郭理解への問い、『遺跡学研究』、4、5-15 頁、2007
- 37 まぼろしの山岳寺院白山 第 3 回 山岳寺院とは何か、『広報久山 8』、vol1437、2007

●書評、学会動向、新刊紹介等

- 1 1977年の歴史学界（中世）『史学雑誌』87-5、85-92頁、1978
- 2 中世城館発掘：熊本県の場合を中心に『史学雑誌』、87-6、1034-1046頁、1978
- 3 千葉県郷土史研究連絡協議会『千葉氏研究の諸問題』『史学雑誌』88-1、83-91頁、1979
- 4 笠松宏至『日本中世法史論』『図書新聞』（7月14日）3頁、1979
- 5 地方史研究協議会『歴史資料保存機関総覧』『日本歴史』390、102-103頁、1980
- 6 『八代日記』『歴史学研究』490、1981
- 7 勝俣鎮夫『戦国法成立史論』『法制史研究』30、206-212頁、1981
- 8 岩手県教育委員会『岩手県中世文書』『史学雑誌』93-10、89-90頁、1984
- 9 佐藤甚次郎『明治期作成の地籍図』『史学雑誌』96-8、120-121頁、1986
- 10 金田章裕『糸里と村落の歴史地理学的研究』『日本史研究』294、63-73頁、1987
- 11 池田公一『中世九州相良氏関係文書集』『史学雑誌』97-3、100-104頁、1988
- 12 1995年の歴史学界（中世）『史学雑誌』105-5、104-108頁、1996
- 13 宗像市『宗像市史』資料編・古代中世1、近世『史学雑誌』105-6 105-107頁、1996
- 14 吉井町『吉井町史』1巻通史編『史学雑誌』106-4、117-8頁、1997
- 15 山口県教育委員会『歴史の道調査報告書・赤間関街道』『山口県文化財』28、44-45頁、1997
- 16 中野等『豊臣政権の対外侵略と太閤検地』『史学雑誌』107-6、89-99頁、1998
- 17 悪党研究会『悪党の中世』『史学雑誌』107-11、123-126頁、1998
- 18 海老澤衷『荘園公領制と中世村落』『日本歴史』633-2、108-111頁、2001
- 19 千田嘉博『織豊系城郭の形成』『歴博』104、2頁、2001
- 20 小野正敏編『図解・日本の中世遺跡』『歴史学研究』754、61頁、2001
- 21 須磨千穎『賀茂別雷神社境内諸郷の復元的研究』『日本史研究』474、118-124頁、2002
- 22 山陰加春夫編『きのくに荘園の世界』、『和歌山地方史研究』73-86頁、2002
- 23 榎原雅治『日本中世地域社会の構造』『史学雑誌』111-4、85-93頁、2002
- 24 石井進『中世のかたち』『歴史と地理』6、555頁、2002
- 25 宇野隆夫『荘園の考古学』『史林』85-6、132-140頁、2002
- 26 米家泰作『中近世山村の景観と構造』『歴史評論』8月号、67-73頁、2004
- 27 保立道久「義経の登場」『アカハタ』読書欄（2月20日）、2005
- 28 講座荘園史の完結によせて『本郷』57、12-14頁、2005
- 29 現地調査の方法による中世村落・民衆像の再検討——地名資料の収集、可視化と科学的分析（新年特集号 共同研究の成果とゆくえ）——（共同研究の現在）、『日本歴史』692、25-27頁、2006
- 30 須磨千穎著『荘園の在地構造と経営』『歴史評論』755、82-87頁、2013
- 31 大山喬平著『日本中世のムラと神々』『史学雑誌』122-8、80-88頁、2013

●学会発表、講演等

- 1 肥前国長嶋庄花嶋村地頭の所領構成について、地方史研究協議会・日本史関係卒業論文発表会、1973
- 2 肥前国長嶋庄における耕地と領主支配、史学会第71会大会報告（『史学雑誌』82-12、79頁）、1973
- 3 戦国大名・相良氏治下の八代衆とは何か—勝俣氏の「郡中惣」説を批判する史学会第74会大会報告（『史学雑誌』85-12）、1976
- 4 変貌する耕地景観と荘園史研究、歴史学研究会大会中世史部会特別報告（『歴史学研究』501、17-32頁）、1980
- 5 御正作・用作等の諸形態—領主の開発と村落支配—、史学会第80会大会報告（シンポジウム「現地調査にもとづく中世荘園の復元的研究とその問題点」）（『史学雑誌』91-12、79頁）、1982
- 6 歴史資料としての地名の特質と利用法 シンポジウム「柳田学の継承と展開」『地名と日本人』＜講談社＞、166-176頁 1983
- 7 水の中世史 史学会例会（『史学雑誌』98-9、92-94頁）1989

- 8 紀伊国栲田庄絵図の受難、九州史学研究会（『九州史学』112、65-66頁）、1994
- 9 歴史学と景観保存、歴史学研究会大会特設部会（『歴史学研究』677、139-143頁）、1995
- 10 怡土庄故地を歩く（福岡県立図書館）（第30回福岡県地方史研究協議大会報告・4-8頁、1997.2
- 11 佐賀平野の歴史地名地図の作成（第40回歴史地理学会大会；於佐賀大学）（『歴史地理学』185・1997年9月、44-45頁）1997.5
- 12 地名と歴史学（信濃史学会）1997.6
- 13 シンポジウム文化財学の時代を開く「環境と歴史学」（別府大学、7-8頁）1997.9
- 14 シンポジウム原城発掘（島原の乱360年記念事業：長崎県南有馬町）15 中世の周防灘地域（福岡県高齢者リーダー養成講座・県教委、築城町公民館）1998.10
- 15 奈文研「城郭遺跡調査過程」「城郭調査法」2000.2
- 16 平成時習館「地名から考える歴史」（熊本城）2000.10
- 17 「城と交通路」（安土町教育委員会・観音寺、第10回佐々木六角氏 観音寺城イベント）2000.11
- 18 佐賀平野に住む・拓く（佐賀県博）2000.11
- 19 中世の小城・景観と文献から読み解く（小城町・桜城館）2001.2
- 20 豊津町歴史民俗資料館友の会「地名の歴史学」2001.9
- 21 小城町シンポジウム「肥前千葉氏と小京都 小城」2001.9
- 22 つのむれ会結成二十周年記念「角牟礼城の保存と整備」2001.10
- 23 熊本地名研究会「地名の歴史学」2001.10
- 24 人吉市「戦国相良氏の三郡支配」2001.10
- 25 泉佐野市歴史館・シンポジウム「日根庄」2001.11
- 26 柳川市古文書館「柳川市域および周辺地域の地名から歴史をさぐる」2002.1
- 27 宗像ユリックス「宗像見聞学」講座「地名と歴史学」2002.3
- 28 大和町ふるさと歴史講座「のろし」2002.7
- 29 星野村 ミニシンポ「星野村の棚田はすごい」2002.8
- 30 遺跡整備・城（奈文研研修）2002.9
- 31 鎌倉時代の開発と土木工事（「重源とその時代の開発」）（大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市）2002.10
- 32 地名の面白さと鳥栖市の地名（鳥栖市文化ホール）2002.11
- 33 天草・島原の乱を考え直す（八代市博物館・未来の森ミュージアム）2002.11
- 34 中世の被差別大衆を考える（九州史学会大会・公開講演）九州大学 2002.12
- 35 地名から歴史を考える——柳川市地名調査報告書刊行の意義（柳川市あめんぼ会館）2003.1
- 36 中世史を拓げる（大村史談会）2003.2
- 37 一揆の籠もった城——鳥越城と原城（石川県鳥越村）2003.3
- 38 むかしの地名、しこ名から佐賀の城が見える、佐賀ふるさと学セミナー（地域編）・城との遭遇、（佐賀県立生涯学習センター・アバンセ）2003.5
- 39 中世史研究の新視点（芸備地方史研究会）2003.7
- 40 且過と唐房 中世都市研究会 2003.9
- 41 歴史情報の読み方（別府大学公開講座・国際文化論「情報を読む 一虚と実の間で一」）2003.11
- 42 青柳種信の資料収集と越前国鞍手郡水原（みずわら）若宮社—中世前期の八幡祭祀と村落の復原—（鎌倉遺文研究会 2003.12
- 43 鹿児島島の文化的景観を読む——城と地名を手がかりに——（鹿児島国際大学公開講座・南九州中世城郭談話会）2004.1
- 44 地名のたのしみ（春日市奴国の丘歴史資料館『地名と風土——身近な地名から知る郷土の歴史』講演会）2004.2
- 45 鎌倉街道越中路と佐々成政が越えたザラ峠（富山大学公開研究会「越中の道」）2004.2
- 46 星野村棚田調査報告会「星野村の棚田の歴史」2004.3

- 47 文永の役に神風は吹いたのか（大和町ふるさと講座）2004.4
- 48 シンポジウム山寺サミット・旧等妙寺、旧等妙寺の歴史的意義（愛媛県広見町・中央公民館）2004.5
- 49 地名史料論（中世史料論の新段階・帝京山梨考古学研究所）2004.7
- 50 中世城館の研究視点——長嶋庄と橋氏館（武雄市橋公民館、ケーブルチャンネル）2004.7
- 51 筑紫野市の地名（筑紫野市ふるさと歴史館）3月地震で延期になったもの2005.5
- 52 鶴庄調査の意義（太子町）2005.10
- 53 武士と河原の者（福岡県人権研究所）2005.11
- 54 中世の溜池築造（兵庫大学設立10周年記念シンポジウム）2005.11
- 55 観音寺城 どうしよーか こうしよー 観音寺城（安土町石寺公民館）2005.11
- 56 福岡県の地名（福岡県教育委員会・吉塚合同庁舎）2005.12
- 57 服部英雄、チャイナタウン唐坊と宗像大宮司の日宋貿易拠点・筑前国高田牧、史学会：研究発表、第一会場（古代）、日本史部会、第105回史学会大会報告）、2007.1.
- 58 服部 英雄、中世の被差別民衆像 九州から考える、全国部落史研究大会、2011.08
- 59 服部英雄、竹崎季長が絵解きする『蒙古襲来絵詞』九州史学会、2014,12

●新聞連載

- 1 毎日新聞：『日本史を読み直す』季刊連載（2002～2007）
内容：福岡城に天守閣はあったのか（2002/9/20）、文永の役再考・モンゴル軍早期撤退の謎（2003/4/11）、秀吉の出自・賤視された境遇から（2003/8/1）、早まるか 二毛作の起源——出土木簡・カタアラシ（2003/10）、飢饉に太る地頭たち——中世の災害克服——佃・門田・用作（2004/1/23）、網野善彦氏の歴史学——弱者、敗者へのまなざし（2004/4/23）、中世の市 その多様性 河原から「在家」まで 地名・絵画・文献史料の発言力（2004/7/16）、平安時代のチャイナタウン 唐房（2004/10）、源平合戦の虚実・潮の流れからみた『平家物語』（04/01/14）、異国のなかの日本城——倭城（2005/4）、犬の馬場という地名・「犬追物」演出した河原の者（2005/7/8）、「一筆一切経の」伝説 巨大プロジェクト／誇大キャンペーン（2005/10/14）、博多の海を海図に読む（2006/2/17）、骨が語るキリシタンの最期・島原の乱・悲惨さをどう伝えるか（2006/5/13）、日本の通貨／中世まで中国銅銭に依存／貨幣価値に差、輸入の原動力に（2006/8/11）、中世の通貨管理／輸入独占、中国銭をコピー／模倣銭は偽金ではなかった（2006/11/18）、有明海という玄関・南蛮の援軍待った島原の乱（2007/3/17）
- 2 石井進氏を悼む（共同通信配信、中国新聞、信濃毎日新聞、大分合同新聞、長崎新聞、愛媛新聞などに掲載）（2001/10/25）

●辞典類

- 1 国史大辞典（吉川弘文館）、平凡社百科辞典、平凡社歴史大辞典、岩波日本史辞典、小学館日本史辞典などの小項目（井堰・分水・かくら（狩倉、狩蔵）・鎌倉街道・史跡・山城など）

●その他

- 1 地名中心現地調査マニュアル、『季刊あるく中世』9、6-7、1996
- 2 都道府県別日本の中世城館調査報告書集成、服部英雄・村田修三監修、東洋書林（2000-2002）
関東地方の中世城館（2000）、中部地方の中世城館（2001）、九州地方の中世城館（2002）、四国地方の中世城館（2002）、近畿地方の中世城館（2002）、北海道・東北地方の中世城館（2002）
- 3 恩師石井進先生（『信濃』54-4、58-62頁）（2002/4/20）
- 4 花田さんと戦争・敗者（花田俊典教授 追悼号）、『九大日文』5、23-25頁、2004
- 5 歴史の道調査報告書集成、責任表示、服部英雄・磯村幸男編集委員（2009）
- 6 翻訳・フロイス『日本史』3部1～4章、九州大学『比較社会文化』：紀要20、31-52頁、2014